



←昨年12月に発行された紫芳会会報第52号において「クラブの伝統：ソフトテニス部座談会」が6ページにわたって掲載されました。その中でも印象的なコート作りの話にでてくる「ローラー」について、髭野さんに当時の写真と日記をもとに詳細な記録を書いたいただきました。(まだご覧になっていない方は紫芳会会報も是非一読を…！)

「グラマーローラーの話」 髭野耕一

1948年。戦時中に鉄鋼供出でローラーの取手はもとより鉄板の衣まで剥ぎ取られて、ローラーのセメントは毀れて30センチ～40センチの角ばった芯だけが残っていました。腰を曲げてローラーを押し転がすのは辛かったし、ローラーが軽くてコートに角の縞模様が付くだけで平らにならないのがじれったかった。

2月。講堂の南側にコートを造りかけた頃、野球部の宮崎(中3)が「豊田の畑にローラーが埋まってる、持ってきてもいいよ」と云う。信じられない魅力でした。

3月4日。中3の新井・大久保・田中がリヤカーに道具を乗せて豊田へ、私(高1)と中3の6人は電車で豊田へ行きました。ローラーは鉄道の官舎の近くの桑畑の小さな空地の隅に半分埋まっていた。肉厚い鉄板の皮に包まれたグラマーローラーでした。掘り上げて砂利道に出して大汗をかいてホット息。やや下り坂なので、ローラーの両側の心棒を綱で引上げながら、ローラーを抱くようにしてそろそろと押して下るのは思ったより大変で、浅川沿いの田圃路に下りる急坂では全員ローラーにしがみついて冷汗をかきました。月が出る頃に高幡橋に着いて、野宿をしようと云うのもありましたが、「今日はこれまで」と飴をしゃぶりながら日野駅から帰りました。

3月5日は卒業生送別コンパでした。終わってから林さん(高3)が「ローラーを見たい」と言い出して、浦野先生と3人で出かけました。見るだけのつもりが高幡橋から「オリент時計」の門までローラーを押して来ました。川崎街道は砂利道でした。

3月7日。高1だけ10人程でローラーを取りに行きました。皆張り切っていましたし、甲州街道は舗装されていたので驚くほど速く進み、学校の裏の坂に着いた頃、浦野先生が6時間目を終えて迎えに来られました。東門を開けて皆でローラーを押し込んで歓声を上げ、ガサガサになった手を比べて無事を祝いました。やがて、倉田先生、岩本先生も来られて挨拶がありました。

4月20日。ローラーのお礼に仲町の越前屋でガラス箱入りの和人形を買って届けました。



1953.3.28 立高のローラー

(通常のローラーは300kg～400kgですが、このローラーは1,000kgに近いグラマーで、コートに来る人に人気がありました。講堂の焼失(1970年)で厚い衣も破れて校舎の陰に寝ていましたが、新しいローラーを見ると「どこへいったの・・・」と、見に行くほどでした。旧校舎と一緒に姿はなくなりました。〔1983年〕)